



# Mine秋吉台ジオパークをベースにしたユニバーサルデザインの試み

山口大学経済学部観光政策学科教授 西尾建 観光政策学科4年 牛丸恵利、奥田勘太郎

## I. 研究の背景・目的

日本では急速に高齢化が進み、総人口に占める高齢者の割合は年々増加している。医療や福祉の進展により、車いすを利用しながら積極的に外出や旅行を楽しむ人も増えている。こうした社会の変化により、観光や自然体験の場においても、高齢者や車いす利用者に配慮した環境整備が求められている。とりわけ、自然や地質の魅力を体感できるジオパークは、多様な人々が自然とふれあい学ぶことのできる貴重な場である。しかし現状では、バリアフリー対応に関する情報が十分とはいえず、高齢者や車いす利用者が安心して散策できるルートや施設に関する情報は限られている。

本研究では、山口県内のMine秋吉台ジオパークや観光施設において車いす向けコースを試走し、屋外環境での情報提供の課題を整理したうえでマップを作成する。これにより、車いす利用者も安心して楽しめるインクルーシブな観光地づくりを目指す。

## II. 現状把握と活動内容

### A. 秋吉台・景清洞・弁天池での実地調査

マップを作成するにあたり、実際に高齢者・車いす利用者が簡単に通行できるか、通行可能範囲がジオパーク内を楽しめるものであるかを確認するため、以下山口県内の4カ所にて実証実験を行った。実証実験は、自走用の車いすとJINRIKIに加え、WHILL株式会社の協力を得て電動車いすを用いて実施した。

#### 【秋吉台カルスター周辺】

秋吉台ならではの地形に車いすが適応できるかどうかを確認した。一部、人力では厳しい部分もあったが、電動車いすでは多少の段差や砂利は難なく乗り越えることができた。

#### 【秋芳洞百枚皿】

正面の入り口はやや急勾配であることが確認できた。また離合する際は、注意が必要である。

#### 【景清洞】

全体的にフラットな遊歩道であること、また路面が濡れているためスリップに注意すべきことを確認した。

#### 【別府弁天池】

池の間近まで車いすで近寄ることができた。また周辺には釣り堀、スロープ、保護柵が設置されていた。

### B. ジオパーク全国大会での取り組み

#### 【日本ジオパーク全国大会 十勝岳大会】

全国大会では、高齢者や車いす利用者もジオパーク散策を楽しめる環境づくりを目的とし、ユニバーサルマップの作成と活用について提言を行った。これは、バリアフリー情報が不足していることで訪問を諦めてしまう方々に向けて、散策しやすいルートや利用可能な施設の情報をマップで提供する取組である。本大会は、「日本ジオパークユニバーサルデザインワーキンググループ主催のセッション」として開催され、全国のジオパークスタッフやガイドから多くの助言を得た。

分科会では、作成したマップ及びマップ作成マニュアルについて口頭発表を行い、事前調査を行った「秋芳洞」「萩城下町」「つばきの館」「別府弁天池」の4カ所を事例に、マップ作成のポイントや実証実験で得られた知見を紹介した。ポスターセッションでは、ユニバーサルマップ作成の取組と今後の普及に向けた提言を行った。



全国大会への参加



口頭発表の様子

### C. 霧島ジオパークとの共同セッション

#### 【霧島ジオパークでの取り組み】

マップ作成に取り組んでいる霧島ジオパークを訪れ、霧島市ジオパーク、霧島ジオパークデザインフォーラムの方とともに、えびの高原コースを試走した。作成したスマートフォン用マップを確認しながら、多目的トイレの位置、段差、コース距離、道路横断箇所などを点検した。試走後には、より良いマップ作成に向けて意見交換を行った。



実地調査の様子



ディスカッションの実施

#### 【共同セッションにおけるコメント・改善点】

- ・ルートが往復で1本道でも、マップの見どころに番号を振り分け順序を提示する
- ・車いすが利用可能な施設を表示する
- ・挿入する写真を春夏秋冬で分類し提示する
- ・段差、傾斜等のバリアの注意点よりも、そのバリアをここではどういう工夫でなくせるかを表示する
- ・車いすの利用方法のシチュエーションの明示

## III. Mine秋吉台ジオパークでの実走とマップ作成

### 【電動モビリティおよび車いすでの試走によるコース作成】

山口県内のmine秋吉台ジオパークにおいて、通常の手押し車いすに加え、補助器具のJINRIKI、電動モビリティで試走し、車いす利用者のマップ作成を行った。

#### 【マップ上での試走の様子】



#### 【マップ作成方法】

- ① Googleアカウントにログイン後、Googleマイマップにアクセス。
- ② 「地図を作成」→「CREATE」をクリック。
- ③ マーカーの追加  
地図上に追加する施設名を検索・選択し「地図に追加」をクリック。
- ④ ルートの追加  
「ラインを描画」のアイコンをクリックし、3つの交通手段 徒歩を選択。出発地と到着地をクリックで選択。

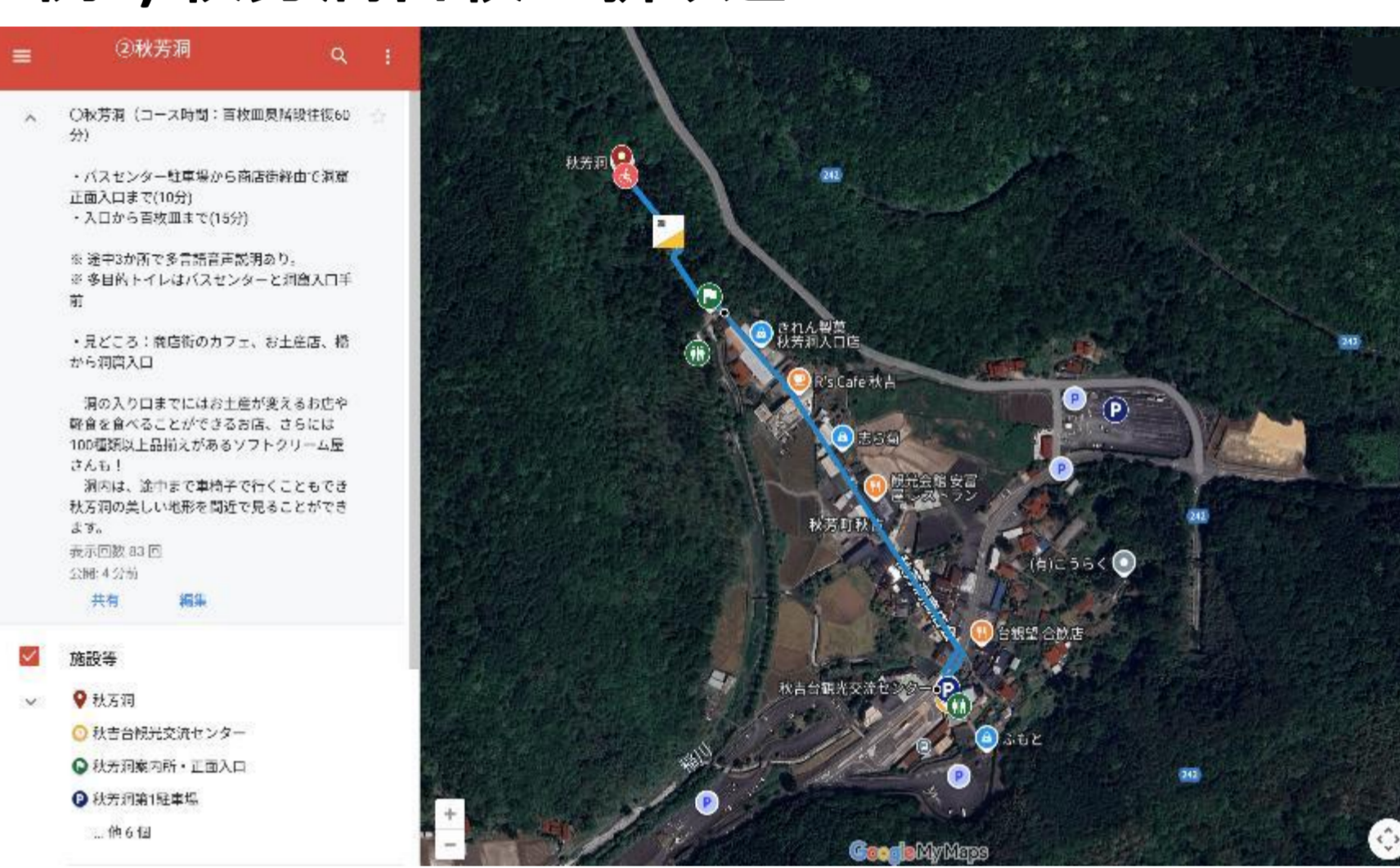
#### 【マップ作成上の注意点】

- ・駐車場、多目的トイレの明示(アイコン)
- ・幅1m、段差(5cm以下)がなく、車いすがスムーズに進める路面
- ・傾斜(同伴者が車いすを押せる角度:補助器具がある場合を除く)

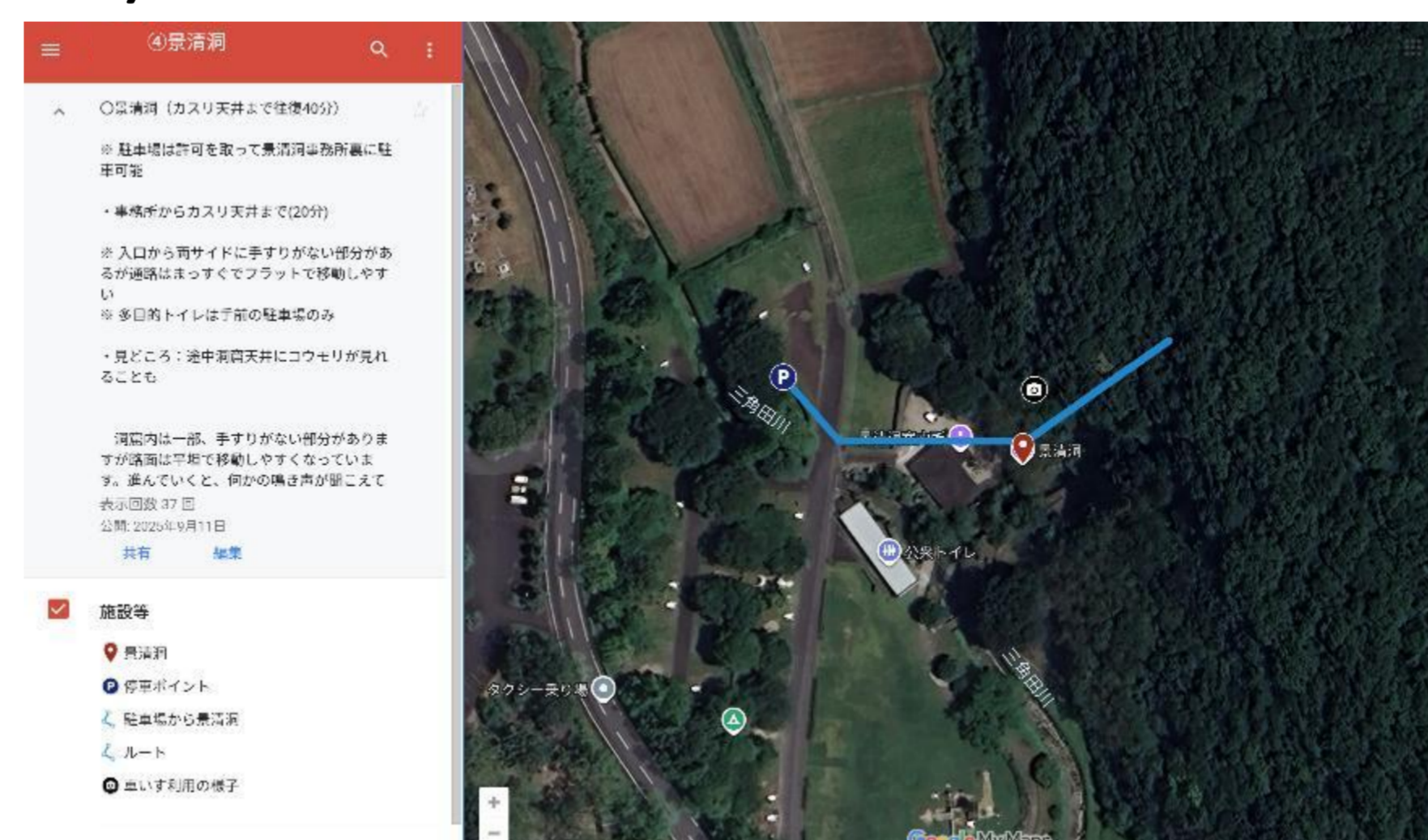
### 例1) 秋吉台カルスター周辺



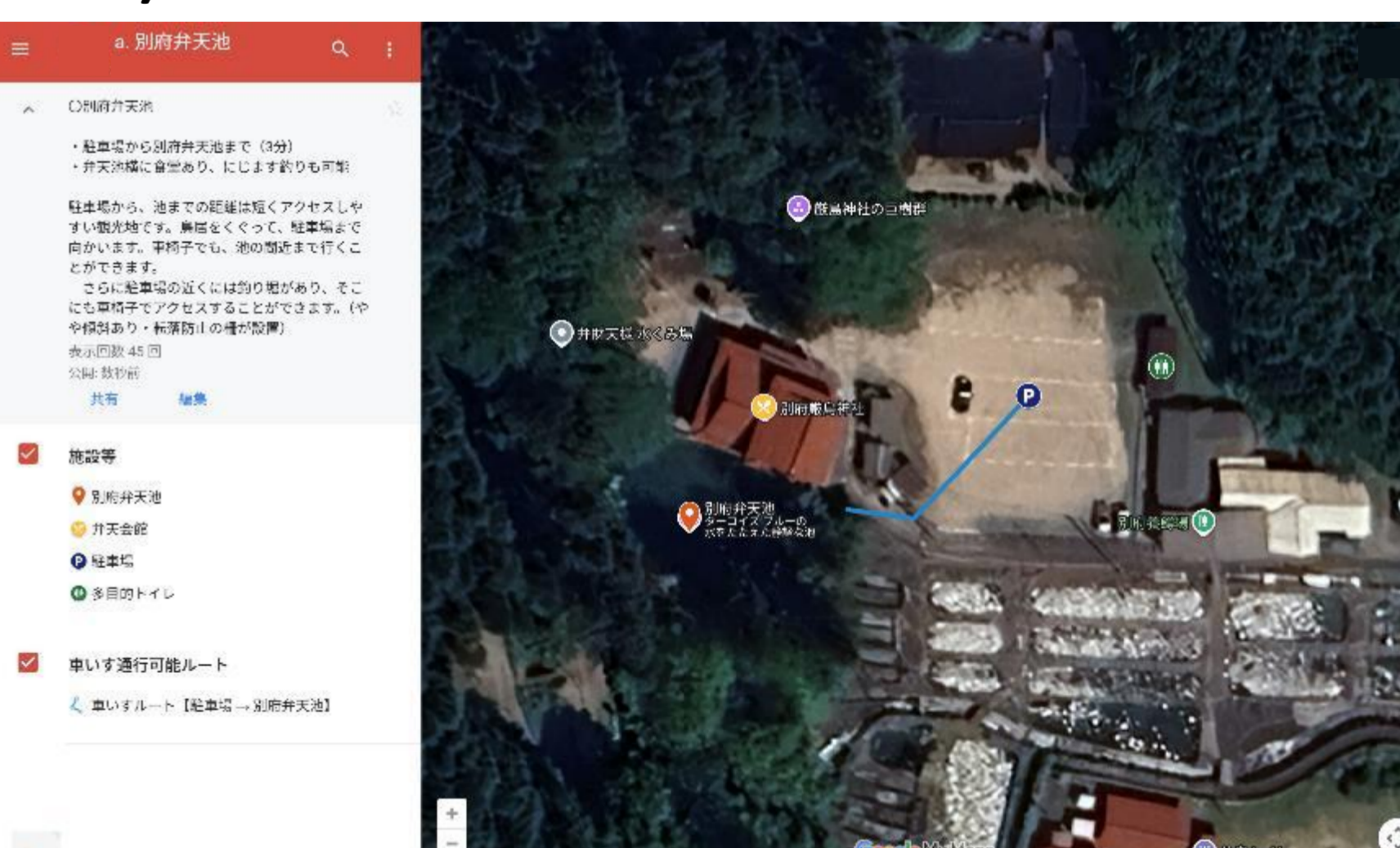
### 例2) 秋芳洞百枚皿折り返し



### 例3) 景清洞



### 例4) 別府弁天池



#### 【試走およびマップ作成を通して】

- ・実際に車いすで試走して得た更新された情報(路面、斜面、トイレなどの施設)が重要
- ・Google マップ機能では傾斜が正確に測定できず、試走および傾斜測定アプリが有効
- ・所要時間、駐車場、多目的トイレや季節による見どころの掲載

## IV. まとめと今後の展開

高齢者や車いす利用者に配慮した散策コース情報を整備し、現地で行動しやすい、具体的で分かりやすい情報を提供することは、誰もが安心して自然や地域の魅力を体験できる環境づくりにつながる。事前に散策コースの難易度やバリアフリー状況を把握できれば、不安が減り、訪問意欲が高まり、利用者層の拡大が期待される。さらにこの取り組みがジオパークを含めた山口県の観光地に広がれば、「高齢者・車いす利用者向けコース」の普及と定着につながる。その結果、これまで参加をためらっていた人々の来訪が促され、観光の裾野が広がり、地域の来場者数や観光消費の増加が見込まれる。このように、情報整備は単なる利便性向上にとどまらず、観光地全体の利用促進と来場者増加を後押しする重要な基盤となる。

## V. 参考文献・資料

東京都産業労働局観光部(2025)東京観光バリアフリー情報ガイド <https://www.sangyo-rodou1.metro.tokyo.lg.jp/tourism/accessible/>  
 第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会「目指せ1ジオパーク1ユニバーサルデザインコース ～すべての人が楽しく地球と触れ合えるモデルコースを作ろう～」  
<https://2025.tokachidake-geopark.jp/workshop/1148/>  
 西尾建、脇田浩二、岡本純也(2025)格差なく楽しめるジオパークを目指して—ユニバーサルツーリズムの取り組みに関する実践報告—山口学研究(5) 1-6.  
 日本のユネスコ加盟75周年特設サイト <https://unesco-sdgs.mext.go.jp/75thanniv>